

ケアマネの育成

- ケアプラン指導研修チームの設置(各職種)
- ケアプランの検証;赤ペン方式(ケアマネへの愛情、1事例1時間以上かかる)
- 精神科・一般の2チームに分ける
- 給付実績の1割を審査(どのようにして扱んだか?⇒給付管理件数70件以上で要介護度3~5の事業所、介護予防委託した事業所1)
- チームメンバーの各職種の視点で実際の利用者の家に行って感想を聞く
- 新任ケアマネフレッシュアップ研修(共通の悩みを話し合う場でもある)
- 検証の一般化
 - 中堅ケアマネ
 - 検証のポイント100
 - 主治医との連携

ケアマネの育成

- 市主催のケアマネジメントの研修は年に1回
- 県主催 ; ケアマネ連絡協議会に委託

主治医との連携

介護予防ふれあいサークル

地域ケア推進コーディネーター

- 最初はけちゃんけちゃん
- 今は？なぜ？
- 位置づけ；在宅介護支援センター内にコーディネーター業務を置いた（職種はばらばら；薬剤師や医師もいた）
- コーディネーター会議を1/M

地域包括支援センター

- 公募で民間委託
- 2830人に1箇所
- 収支は？

キーワードを分担

- 自立支援：保健師および経験をつんだ看護師
- 尊厳：社会福祉士
- 在宅復帰：主任介護支援専門員
- コミュニティ；地域ケア推進コーディネーター

介護予防ふれあいサークル事業

- 市からの具体的援助内容？
- 1グループ5、6人以上でその中に要援護高齢者を1名は含むことなどの条件がある
- 市が業務委託(1ヶ月2000円;会場費として500円と見積もっている)
- 407サークル(介護保険か350、長寿会主体50)

介護予防地域啓発活動

- 地域の高齢者を対象に介護予防普及啓発のための説明会を開催する
- 地域住民主体の介護予防教室を軌道に乗せるための支援を行う(ちょいリハの支援;半年で15人が固定参加、参加者同士の連絡網もできる)⇒どのようにしてバトンタッチするかをこれから話し合う、虚弱高齢者をどのように誘い出すか

虚弱高齢者介護予防教室

- 8回連続参加の意義を理解してもらう
- 参加者自信は虚弱高齢者との意識はない
- 毎回宿題として体操を家でもやってもらっている
- 継続を希望する声が出ている
- 介護予防についての自分なりの考えを持つようになってきている(ウォーキングやゲートボールをするようになってきている)
- 地域包括支援センターの職員と地域住民とが顔見知りになってる

施設入所者在宅復帰支援

- 施設側が在宅復帰を支援しようとするような働きかけ(行政;地域包括支援センターが主役か)
- 施設と地域包括支援センターのネットワーク
- 地域包括支援センターと病院の職員との連携

本日の提案

2007年9月9日

高知県リハビリテーション研究会
臨時大会

似たようなことがマネできそうなこと

- ケアマネの研修方法の再検討(ケアマネ連絡協議会・地域包括支援センター・地域リハ広域支援センター)
- 主治医との連携方法の再検討(医師会との強固な連携)
- ふれあいサークルのような地域の中の場を作る(住民への啓発活動;地域包括)
- 病院・施設から帰す試みを地域として取り組む(モデル事業?地域包括?)
- 「在宅・入所相互利用加算」の活用(どうやって開始するか?モデル事業?)
- 介護負担を施設内で軽減できるようなケア(維持期リハ)の、施設対象の研修会